

# ビッグデータを活用した労働市場動向の分析と 雇用予測モデルの開発

Analysis of Labor Market Trends Using Big Data and  
Development of Employment Forecast Models

学籍番号 氏名  
22011361 山羽瑠

多摩大学経営情報学部経営情報学科  
久保田ゼミ  
令和5年度 卒業論文

2023年7月

## 概要

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックは世界的な経済活動に大きな影響を及ぼし、その中でも労働市場は大きな変化を経験している。その変化に対応し、未来の労働市場の動きを理解しようとする試みが必要であり、それこそが本研究の動機となる。

現代の労働市場は、オンライン求人、人事データ、ソーシャルメディア等から大量のデータを生成しており、これら进行分析することで労働市場の動向をリアルタイムに把握することが可能となっている。本研究では、これらのビッグデータを活用し、新たな雇用の予測モデルを開発する。

具体的には、労働市場や労働力人口に関連するビッグデータを集め、機械学習を活用した分析手法により、これらのデータから労働市場の動向を読み解く。そしてその結果を基に、雇用の予測モデルを構築する。

仮説としては、パンデミックにより変化した労働市場の動向が、雇用モデルにも大きな影響を与えると考える。リモートワークの増加や職種・業種のシフトといった変化により雇用者の増加、人件費の削減など労働市場全体に与える影響を予測することが可能となると予想している。

本研究の目的は、パンデミック後の労働市場の動向を理解し、未来の労働市場の動きを予測するための新しい手法を開発することである。これにより、企業の人事戦略立案や政策立案者の意思決定に有用な情報を提供できることを目指している。

予想される結果としては、パンデミックによる労働市場の変動が雇用モデルにどのように影響を与えるのかを詳細に描き出すことができると期待している。特に、リモートワークの普及や職種の変化といった大きな動きが雇用モデルにどのように影響を及ぼし、どのような対策が求められるのかを明らかにすることが可能となると予測している。これは、パンデミック以降の労働市場の現状理解を深め、未来の労働市場の動向を予測するための新たな手法の開発に寄与するはずである。

最終的に、本研究が企業の採用戦略の立案や政策立案者の意思決定に対して有用な情報を提供することで、労働市場の安定化と発展に貢献できることを期待している。それにより、パンデミック後の新しい労働市場の形成に適應するための一助となることを願っている。

## 目次

1. はじめに	1
2. 研究方法	5
2.1 研究対象地域	5
2.2 ****	10
3. 結果	15
3.1 ****	15
3.2 ****	20
3.3 ****	27
4. 考察	35
4.1 ****	35
4.2 ****	40
5. 結論	46
謝辞	47
引用文献	50

\*↑目次は、本文中で見出しをつけた後、「参考資料」→「目次」から挿入する  
以降は、6月の研究計画の段階では不要。  
また、6月の段階では本文作成前のため、適宜作成のこと。

## 図表目次

図 1 研究対象流域	6
図 2 研究対象流域の地質	8
図 3 ****	11
・	
表 1 ****の分析値	17
表 2 ****	19
・	

\*↑図表目次は、「参考資料」→「図表番号・図表目次の挿入」を利用する

## 付図付表

付図 1 *****	
付表 1 *****	

## はじめに

- \*見出しに、「ホーム」→「スタイル」から見出し設定をしておくこと、論文の執筆が楽になる
- \*印刷時、本文第1ページは見開き右側にする
- \*図表はなるべく本文中で引用されている箇所の近くに挟み込む
- \*印刷はレーザープリンタを利用し、両面印刷をすること
- \*卒論完成時に1部印刷し、提出する
- \*審査後の差し替え時の完成版は2部印刷し、提出する
- \*行数、字数、フォント、フォントサイズの指定は無い→指導教員と相談をすること
- \*引用文献リストに記載されている文献は、全て本文中に引用すること
- \*学位論文中の図表は番号を振り、番号順に本文中で引用すること
- \*物循では、原則、句読点は「，」「．」を用いること

\*本文からのページ番号は数字 (1, 2, 3 ...) とする